

(有)グリーンハウス南 代表取締役

南 和弘さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「佐山地区の皆さんにも認めてもらい、地域を支える農業法人に育てていきたい」と話すのは、久御山町佐山の有「グリーンハウス南」代表取締役の南和弘さん(50)だ。

同地区は、宇治川・桂川へとつながる木津川の上流に位置し、川沿いに約30畝の農地が広がる。木津川が運ぶ肥沃(ひよこ)な土壌に加え、都市近郊で平場の立地状況に恵まれていることから、水稲や野菜生産が盛んだ。

南さんは35歳で脱サラし、水稲と多品目の野菜作りをする父と共に、14畝で農業を始めた。その後、ハウスで周年栽培が可能な小松菜に着目し、この栽培一本に絞って取り組んできた。

農業の可能性信じる

▶ ハウスで「万願寺とうがらし」の収穫に励む南さん



一方で、「周囲の農家では高齢化や後継者不足が深刻で、私のところに農地を預けたいという声が多くなっていった」と振り返る。「条件が良くて、もうからなければ後継ぎはいなくなる。地区の農業を守る存在になりたい」との一心

で、JA京都やましろに相談。法人化を勧められ、2005年に同社を設立した。

設立当初は、ハウス14棟で小松菜の周年栽培をしていたが、現在は約2倍の24棟に増やして「万願寺とうがらし」やキュウリを経営

に取り入れている。特に7棟で栽培する「万願寺とうがらし」は、JA管内でも最大規模だ。周りに野菜農家が多いため、作物が競合しないよう心掛けている他、預かった水田での水稲生産や農作業受託に力を入れ、農地維持に努める。

「法人を立ち上げて約10年だったが、まだまだスタートしたばかりとの思いで頑張っている。『農業では生活できない』と思われているようでは、後継者が育たない。法人の経営を軌道に乗せ、その姿を見てもらうことで農業の可能性を感じてもらい、若い人にもっと農業に従事してもらうことを目指している」と南さんは話す。

.....

■法人所在地 久御山町佐山西ノ口26の2、(電) 0774(26)5706。

■法人概要 2005年10月設立。役員5人、パートタイマー2人(収穫時)。経営面積15・8畝(ハウス24棟)。農機はトラクター3台、田植え機とコンバイン各1台、米乾燥調製機1台。